

第35回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会（議事録）

- 1 日 時 令和元年10月29日（火） 13:30～14:40
- 2 場 所 能代市浅内自治会館
- 3 出席者 浅内自治会（柴田和郎副会長）、小野沢自治会（小沼孝光会長、渡辺正史副会長）、能代南土地改良区（保坂智）、能代の産廃を考える会（原田悦子事務局長）、能代市浅内財産区（山田文雄管理会会長、淡路誠能代市総務部長）、能代市（吉岡康隆産業環境部長）、秋田県（高橋修生活環境部長：委員長）
【敬称略】
- 4 議 事 (1) 平成29年度に掘削撤去したドラム缶の処分状況について
(2) No. 2 処分場における廃油入りドラム缶の分布範囲等について
(3) その他

○秋田県 高橋生活環境部長 挨拶（要旨）

- ・No. 2 処分場に残存するドラム缶については、今年7月に開催したこの協議会において、7月9日からドラム缶の分布状況を把握するためのボーリング調査を開始する旨ご説明したところであり、その後、予定していた10地点すべてのボーリングを終え、ボーリングコアの廃棄物分析と調査結果の解析を行ってきた。
- ・先般、その解析が終了したことから、10月9日に、有識者4名で構成する「能代産業廃棄物処理センターに係る環境保全対策部会」を開催し、調査結果等から推定した「No. 2 処分場における廃油入りドラム缶の分布範囲等」について審議いただき「おおむね妥当」である旨の回答をいただいたところである。
- ・本日は、調査結果等から推定したドラム缶の分布範囲、及び分布範囲を元に設定した掘削範囲について説明させていただきたく、残存する廃油入りドラム缶の掘削撤去に向けた協議をしたいと考えている。

（議事（1）、（2）について事務局で説明後、質疑応答）

<質疑の概要>

- | | |
|-----|---|
| 委 員 | ドラム缶の掘削撤去を来年度、処分をさらに翌年度に行う旨の説明があったが、来年度、掘削して出てきたドラム缶の本数が、どの程度なら、来年度中に処分まで終わられる、または翌年度に処分せざるをえないといった、本数による考え方があれば教えてほしい。 |
| 県 | 想定どおり最大掘削範囲まで掘削した場合、掘削だけでかなりの費用がかかる。今見えているドラム缶を撤去するだけで掘削が終わった場合は、処分を含めて単年度で行うということも考えられるが、具体的なドラム缶の本数による考え方は今のところない。 |
| 委 員 | 過去の掘削撤去時は、底面の設定が間違っていたと思う。ドラム缶の想定本数も少なく見積もっていた。法面に勾配をつけ、形を整えながら掘削していた中で、平成29年度は壁にぶつかったのだと思う。同じ轍を踏まないためにも、今回の最大掘削範囲は、工事に差し障りのないよう、十分な範囲で面積を計算していただきたい。 |

県	最大掘削範囲の底面は10m×10m程度の面積であり、法面も併せると、掘削して見えている面積はさらに広がる。平成29年度の反省を踏まえ、来年度は早期に工事にかかる。想定以上の掘削が必要になった際、補正予算を確保できれば、追加の工事もできる。そこまで想定して事業を進めたい。
委員	平成29年度は、予算が無いという説明を受けとてもびっくりした。そのようなことがないようにしていただきたい。非常に細かい間隔でボーリング調査を行っていただいた結果、ドラム缶らしいものは確認されなかった一方で、汚染されている土壌の状況をみれば、安定型最終処分場にふさわしくない廃棄物が埋め立てられていることは確認できるので、丁寧かつ慎重な掘削撤去をお願いしたい。
県	これまでどおり、丁寧に行く。
委員	VOCを含む廃棄物は、焼却で処理できるものなのか。
県	ドラム缶の内容物を含め、基本的に廃油は焼却で処理できる。平成29年度に撤去したドラム缶の内容物は、大館市の産業廃棄物処理業者に委託し処分した。
委員	今回はドラム缶の掘削撤去の話をしているが、VOC等の有害物質が流出しないことが一番重要だと思う。ドラム缶を撤去した後も、そうした管理をしっかりしていただきたい。
県	能代産業廃棄物処理センターは、全体を遮水壁で囲んでおり、汚染された地下水が外部に流出しないようにしている。汚染された地下水は汲み上げ処理を行っており、処理水は能代市下水道へ放流しているが、こちらは変わらず継続していく。
委員	促進酸化施設によりかなり処理は進んでいることと思うが、地下水にはVOCが基準値よりも高いところもあるようなので、発言させていただいた。
県	引き続き、汚染された地下水の汲み上げ処理を続けていく。
委員	今回、県から説明を受けたことについて、10月9日の環境対策部会においても概ね妥当である旨の判断を得ているとのことからも、地元住民団体として、了解したいと思う。 ただし、これまで住民団体は、他の処分場のドラム缶の撤去についても強く要望している。あくまで、今回説明いただいた事業の進め方を了解するということであり、まだやることは残っているということを確認いただいたうえで進めていただきたい。 (以上、質問等なし)
委員長	以上で第35回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会を終了する。